



佐賀大学教職大学院 広報誌

院生ライフレポート



2026年
第9号(1月)



1年間の学びの総仕上げに向かって

新年明けましておめでとうございます。いよいよ教職大学院生活1年目も残り少なくなってきました。後期は10期生全員で学ぶ時間が3コマあります。4月の入学当初と比べると、院生同士の仲も深まり、より活発に協議し、熟考しながら学び合う姿が見られるようになっています。ここでは、その一例をご紹介します。

月Ⅲ「教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題」



1月19日、小・中・高のグループに分かれて、課題図書を使った心理教育の模擬授業を行いました。現場で役立つ発達段階に応じた認知行動療法を学び、子どもの心理について理解を深めることができました。

金Ⅲ「教職キャリアデザインの基礎と課題」



1月9日、うれしの特別支援学校の片瀬教頭先生に、ゲストティーチャーとして特別支援学校の協議にご参加いただきました。「教師の仕事」についての知見を広げることができました。

金Ⅱ「学校教育と教員のあり方に関する調査方法論」

講義後半の質的調査方法では、ケース・スタディにおけるインタビューや観察、及び分析手法について学んでいます。1月23日に附属小学校の授業を参観させていただき、「観察を通した収集」「インタビューを通したデータ収集」「データ分析」を行うことで、学んだ理論を実践形式で往還しながら身に付けます。



それぞれのコースの専門領域でも1年間の学びの仕上げに入っています。次年度に向けた意気込みをご紹介します。

【授業実践探究コース】

先行研究や実習での取り組みを体系的に整理し、自身の課題を明確にします。

その上で、現場で得た実感に伴う気づきを研究の核に据え、次年度はより教育の実態に即した実践的な探究へと深め、質の高い成果を目指す一年にしたいと思います。

【子ども支援探究コース】

これまでの学びを活かしたプログラム開発や、様々な先行研究の要約・発表を行っています。

次年度の研究に向けて、現職は現任校での予備調査や現状分析をまとめています。

現任校における課題や強みに着目し、現場の力になれるように頑張っていきたいと思っています。

【教育経営探究コース】

現任校の課題解決に向けて、自らが立てたプランをもとに、来年度は学校変革実習を行っていきます。今年度学んだことを踏まえ、自分自身だけでなく、現任校の児童生徒や先生方にとっても、実りある一年となるよう頑張っていきます。